創刊にあたって

筑波大学人文社会科学研究科に国際日本研究専攻が発足したのは2008年４月である。この専攻は，人文社会科学研究科の再編成によって，同研究科の様々な専攻から，特に国際比較，国際交流，日本語教育など国際的な観点を踏まえ高度な日本研究を行っている研究者24名を糾合して出発した。専門研究のディシプリンから言えば，哲学・倫理学，歴史・民俗学，政治学・比較政治，政治外交史，経済学・社会経済史，文学・映像論，社会学・情報社会論，国際関係，国際政治，メディア論，文化交流史，移民研究，日本語学，日本語教育学，計量分析など極めて多彩である。（詳細は本誌の付録に専攻の案内，教員紹介を付したので参考にしていただきたい。）

この専攻の直接の構想の出発点は，現在副学長の要職にある波多野澄雄教授（４月から本専攻に復帰）が研究科長の時代に遡る。筑波大学としてみれば，大学院　地域研究研究科（1975年，修士課程。現，国際地域研究専攻）に日本研究コースを設け，また学部レベルに国際関係学類（83年，現，国際総合学類）や日本語・日本文化学類（1985年）を設けた時期に遡るだろう。

個人的には，1990年前後の大きな世界システムの転換期に，2年間コーネル大学に在外研究した（また，その後の）海外経験が印象的である。アメリカ政治学会，アジア研究学会，世界政治学会など国際学会に参加し拙い報告をし，日本の学問による世界の学界への，世界的標準での貢献は何か，を真剣にまた深刻に悩んだことを思い出す。

その一つの答えが，「国際日本研究」International and Advanced Japanese Studies に他ならない。学問的な意味で日本語が堪能であり，もしくは様々な意味で「日本」を学問的に十分分析し研究可能であるこ

と，それは必要条件かもしれないが，加えて，国際的な学術水準を知り，かつ世界の学界に理解可能な形で提示すること，それがInternationalでAdvancedな研究であろう。

こうした意味での国際日本研究の一つのフォーラムがこの学術誌である。私たちの知的冒険はまだ始まったばかりである。多くの世界の人々とともにこの新しい教育と研究の地平をしっかり切り拓いていきたいと思う。

国際日本研究　専攻長　辻中 豊